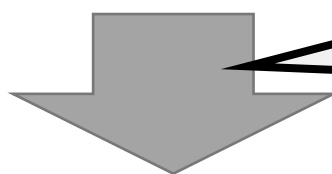


◆◆ 2—5 ◆◆

4時間目のレッスンプラン

—Q9：日本の拡張政策の要因は何といえるか？—

課題	東アジアにおける日本の拡張政策の要因を、1～3時間目で使用した史資料を根拠にしつつ論証しよう。その際は、作成したチェックリストを参照して、それぞれの批判的研究方法を活用しながら論証しよう。
ねらい	<p>○1時間目から3時間目に出てきた史資料の特性を振り返り、史資料を分析する際の注意点を確認する。</p> <p>1時間目から3時間目に出てきた史資料(回顧録, 歴史学者の著書, 公文書)の特性に着目し、これらの史資料を分析する際にはどのような点に注意しなければならないかを確認する。</p> <p>○「東アジアにおける日本の拡張政策の要因」について、根拠となる史資料を明示しながら論証する経験を通じて、史資料の批判的研究方法の4つのスキルを獲得する。</p> <p>歴史の研究においてより説得力のある論証の条件について確認し、1時間目から3時間目まで出てきた史資料を根拠とした論証の経験を通じて、理解・価値・限界, 比較・対比, 評価のスキルを獲得する。</p>
主要な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の経済状況 ・日本の内閣制度 ・中国の政情不安
使用する資料	【1～3時間目に使用した資料】



- ・4時間目の授業の流れ (p.77)
- ・資料のガイドや問い (pp.78～84)

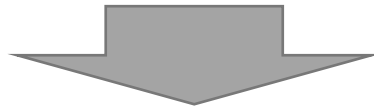
【課題に対して、以下のように回答することが求められます】

(例) 東アジアにおける日本の拡張政策の要因は、日本国内の不況である。1時間目で用いた資料2～資料5は、日本国内が不況であったこと示しており、この主張の根拠となる。また、経済史を専門に研究する研究者が示していることから根拠となる。一方で、これらの資料だけでは、当時の経済状況が人々にどれほどの影響力を与えていたかという点は示すことができない。

【4 時間目 レッソンの流れ】

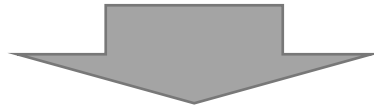
【SQ 1】 これまで使った資料を振り返る

1 時間目から 3 時間目から使用した資料が、どのようなものだったのか振り返る



【SQ 2】 資料に応じた読み方を振り返る

各資料に応じて、なぜ、どのような読み取り方をしてきたか振り返る



【SQ 3】 SQ2 で振り返ったことを表にする

SQ2 で振り返ったことに基づき、各スキルを使用する目的や場面を表にまとめる



第 2 次全体の課題に答える

以下に示す第2次の課題に答える

東アジアにおける日本の拡張政策の要因を、1～3時間目で使用した史資料を根拠にしつつ論証しよう。
その際は、作成したチェックリストを参照して、それぞれの批判的研究方法を活用しながら論証しよう。

SQ1：これまで様々な資料を通して学習したが、どのような史資料が出てきたか？

評価

これまで使った資料を用います：ここでは例として、1時間目の資料1を挙げています。

【資料1：経済要因に関する歴史学者の見解①】

以下は、塚瀬進によって書かれた日本史の概説書の一部で、満州国の建国までの経緯を説明した一部である。

満州国の建国

中国情勢の変化により対満州政策の転換が求められるなか、世界大恐慌の影響により日本国内は不況のどん底に陥った。不況脱出の手段として「満蒙への道」が叫ばれ、関東軍石原莞爾らは具体的な占領計画を練り始めた。石原らの計画は1931年（昭和6）9月18日に日本政府の承認を得ることなく実行された（満州事変）関東軍は軍事行動を進め、翌32年2月にはハルビンを占領し、3月1日に満州国は建国の産声をあげた。

*塚瀬進：長野大学の教授、主な研究関心は、東洋史、近現代日中関係史

（塚瀬進（2004）「満州国の実験」山室建徳編『日本の時代史25 大日本帝国の崩壊』、吉川弘文館、p.119より引用）

資料読解の手がかり

- ・各時間で使用した資料が、概説書だったのか、回顧録だったのかなど、どのような資料だったのかを振り返らせたり、出典に注目させたりします。

詳細は次頁

SA1：生徒が以下のように解答できることが期待されます

経済データを示した文献資料、日本史の概説書、専門書、公文書、回顧録など。

資料読解の手がかり

スキルと色の対応	
理解スキル	青
価値限界スキル	オレンジ
比較対比スキル	緑
評価スキル	赤

どのような資料が判断できない場合

リード文を読ませて、
概説書であることに気づかせましょう。

【資料 1：経済要因に関する歴史学者の見解①】

以下は、塚瀬進によって書かれた日本史の概説書の一部で、満州国の建国までの経緯を説明した一部である。

満州国の建国

中国情勢の変化により対満州政策の転換が求められるなか、世界大恐慌の影響により日本国内は不況のどん底に陥った。不況脱出の手段として「満蒙への道」が叫ばれ、関東軍石原莞爾らは具体的な占領計画を練り始めた。石原らの計画は1931年（昭和6）9月18日に日本政府の承認を得ることなく実行された（満州事変）関東軍は軍事行動を進め、翌32年2月にはハルビンを占領し、3月1日に満州国は建国の産声をあげた。

*塚瀬進：長野大学の教授、主な研究関心は、東洋史、近現代日中関係史

（塚瀬進（2004）「満州国の実験」山室建徳編『日本の時代史 25 大日本帝国の崩壊』吉川弘文館、p.119）

資料がどのような資料が判断できない場合

ナンバリングしてあることなどから、一連の概説書シリーズであることに気づかせます。また、他の資料についても出典に注目させて資料がもつ性質を確認しましょう。

生徒へのサポートの例

- ・リード文を読んでみよう。概説書とはどのような本だろうか？
- ・「25」とは、何の番号だろうか？
- ・概説書と他の文献では歴史の描かれ方はどのようにかわるのだろうか？

MQ SQ2：資料から情報を読み取るとき、何に、なぜ気をつけなければいけないのだろうか？

評価

これまで使った資料を用います：ここでは例として、1時間目の資料1を挙げています。

【資料1：経済要因に関する歴史学者の見解①】

以下は、塚瀬進によって書かれた日本史の概説書の一部で、満州国の建国までの経緯を説明した一部である。

満州国の建国

中国情勢の変化により対満州政策の転換が求められるなか、世界大恐慌の影響により日本国内は不況のどん底に陥った。不況脱出の手段として「満蒙への道」が叫ばれ、関東軍石原莞爾らは具体的な占領計画を練り始めた。石原らの計画は1931年（昭和6）9月18日に日本政府の承認を得ることなく実行された（満州事変）関東軍は軍事行動を進め、翌32年2月にはハルビンを占領し、3月1日に満州国は建国の産声をあげた。

*塚瀬進：長野大学の教授、主な研究関心は、東洋史、近現代日中関係史

（塚瀬進（2004）「満州国の実験」山室建徳編『日本の時代史 25 大日本帝国の崩壊』、吉川弘文館、p.119）

資料読解の手がかり

・各時間で使用した資料を、どのように扱うべきだと学んだか振り返らせます。

詳細は次頁

SA2：生徒が以下のように解答できることが期待されます

概説書は詳細な資料やデータが専門書ほど多くないので、主張を読み解く際に他の資料を補足する必要がある。

専門書は歴史的背景が見えにくくなる。

回想録は当人の印象と事実とが判別しにくい。

公文書はその政府にとって不利益がないような表現になっている。

資料読解の手がかり

概説書の限界に気づけない場合

【資料 1：経

どのような影響なのかが詳述されていないことに気がつかせませす。

以下は、塚瀬進によって書かれた
部である。

満州国の建国

中国情勢の変化により対満州政策の転換が求められるなか、世界大恐慌の影響により日本国内は不況のどん底に陥った。不況脱出の手段として「満蒙への道」が叫ばれ、関東軍石原莞爾らは具体的な占領計画を練り始めた。石原らの計画は1931年（昭和6）9月18日に日本政府の承認を得ることなく実行された（満州事変）関東軍は軍事行動を進め、翌32年2月にはハルビンを占領し、3月1日に満州国は建国の産声をあげた。

*塚瀬進：長野大学の教授，主な研究関心は，東洋史，近現代日中関係史

（塚瀬進（2004）「満州国の実験」山室建徳編『日本の時代史 25 大日本帝国の崩壊』，吉川弘文館，p.119）

生徒へのサポートの例

- ・概説書と専門書を比べたとき，それぞれのメリットとデメリットは何だろう？
- ・自分の思い出や過去にあった出来事について記した回顧録を書くことを想定したとき，その際の回顧録の限界性について考えさせましょう。

SQ3：SQ2で振り返ったことを一覧表にするとどのような表が作れるだろうか？

評価

生徒に以下に示すような表を作成させます

批判的研究方法	何のためにやるのか	何に気をつけるか
理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日記や書籍の記述や主張を読みとるため（抽出） ・ 回顧録には直接書かれていない社会の状況を予想するため（推測） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済データのタイトルや凡例から何が示してあるか確認する（抽出） ・ 資料に書かれていることから予想する（推測）
価値・限界を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府公文書がどれほど信頼できる資料か分析するため（価値） ・ 回想録がどれほど信頼性のあるものかを分析するため（価値） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回顧録がいつ誰によって書かれたものなのか注意する（価値） ・ 回顧録は後の時代から当時をふり返ったものだから、正確な記憶でない可能性に注意する（限界）
比較・対比する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何冊かの書籍に書いてある主張の共通点を見つけるため（比較） ・ 経済データと当時の日本社会を説明する資料の役割を区別するため（対比） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軍部大臣現役武官制に関する記述の共通点に着目する（比較） ・ 同じ出来事や人物に関する記述の相違点に着目する（対比）
評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史学者がある出来事に関して主張を述べるときに、根拠を提示しながら主張を述べていくため 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史学者の主張に同意できるか判断するために、複数の専門書を用いて根拠を整理する

作成の手がかり

- ・ これまで資料をどのように使ったか、下線を引くなどして内容を理解したか、他の資料と比較して類似点と相違点を明らかにしたかなど批判的研究方法を用いた目的や状況を生徒に捉えさせましょう。

詳細は次頁

作成の手がかり

批判的研究方法	何のためにやるのか	何に気をつけるか
理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日記や書籍の記述や主張を読みとるため (推測) ・ 回顧録に記述されていない社会の状況を読みとるため (推測) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済データのタイトルや凡例など、何を指しているか確認
価値・限界を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府公文書など、利用できる資料が限られている (価値) ・ 回想録がどれほど信頼性のあるものかを分析するため (価値) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回顧録は後の時代から当時をふり返ったものだから、正確な記憶でない可能性に注意する (限界)
比較・対比する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何冊かの書籍に書いてある主張の共通点を見つけるため (比較) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軍部大臣現役武官制に関する記述の共通点に着目する (比較) ・ 同じ出来事や人物に関する記述の相違点に着目する (対比) ・ 歴史学者の主張に同意できるか判断するために、複数の専門書を用いて根拠を整理する

スキル名が設けられない場合

第1次で学んだスキル名と、第2次で使用してきたスキルがどのように対応するのか、考えさせましょう。

表が埋められない場合

SQ2 と SQ3 で振り返ったことを確認させ、振り返りが資料を読み取る時のものだったのか、比較するときのものだったのかなど、いつ使っていたか問いましょう。

生徒へのサポートの例

- ・ 先ほど振り返った注意点が、どのスキルに対応するか、考えてみましょう。
- ・ なぜ、様々な資料を読むときにスキルが必要だったか、考えてみよう。
- ・ どのような資料を読むときにスキルを使用しただろうか？

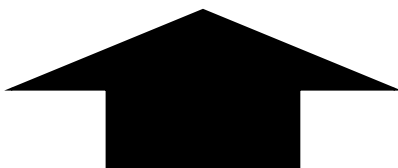
【4時間目の課題】

東アジアにおける日本の拡張政策の要因を、1～3時間目で使用した史資料を根拠にしつつ論証しよう。その際は、作成したチェックリストを参照して、それぞれの批判的研究方法を活用しながら論証しよう。

【4時間目で想定される生徒の解答】

（例）東アジアにおける日本の拡張政策の要因は、日本国内の不況である。1時間目で用いた資料2～資料5は日本国内が不況であったことを示す資料であり、この主張の根拠となる資料である。また、経済史を専門に研究する研究者が示していることから根拠とできる。一方で、これらの資料だけでは、当時の経済状況が人々にどれほどの影響力を与えていたかという点は示すことができない。

（例）東アジアにおける日本の拡張政策の要因は、内閣の意思決定力が弱かったことであると考えられる。資料10～12を根拠にすれば、軍部大臣現役武官制という制度によって、内閣の政治的な決定権を疎外していた現状が指摘できる上、複数の内閣がこの制度によって政策を進められなかった現状が指摘できる。しかしながら、2時間目の最後に用いた資料13のように軍部大臣現役武官制が内閣の意思決定権に影響を与えていなかったという研究もあり、留意する必要がある。



【4時間目の問いに答えるために】

第2次の各レッスンで「日本の拡張政策の要因」が何と主張されていたか、主張の支えとなる資料にはどのような資料があったか、どのようなスキルをどんな場面で用いたかなど、4時間目のレッスンで振り返ったことに基づいて課題に答えさせましょう。